

関わることを、おもしろく。

01. INTERVIEW 岡昇平 × 三浦ひろき 特別対談

02. ACTION 6つのアイデアに対して取り組んだこと

03. COLUMN コラム「一年を振り返って」

04. PROFILE プロフィール

特別
対談

「見立て」が 生み出す、 まちのつながり

岡昇平 Shohei Oka

設計事務所岡昇平共同代表 / 仏生山温泉番台

三浦ひろき Hiroki Miura

浜田市議会議員

9月に制定された「浜田市協働のまちづくり推進条例」には、市民のみならず、団体、そして行政の役割を改めて確認するとともに、まちづくりへの主体的な参画意識を共有しようというメッセージが込められています。「まちづくり」ってそもそもどういうもの？

今回は、香川県で温泉施設を運営されている岡昇平さんに、同氏が提唱された「まちぐるみ旅館」の考えを伺いながら、まちへの関わり方を考えてみました。

～まちぐるみ旅館とは？～

「まち」を「旅館」に見立てて、まちに点在する飲食店、浴場、物販店、宿泊所などが旅館にある様々な機能をそれぞれに担うという考え方、及びそれをつなぐプロジェクト。

岡昇平 Profile
設計事務所岡昇平共同代表
仏生山温泉番台

香川県生まれ、徳島大学工学部卒業、日本大学大学院芸術学研究科修了。みかんくみを経て高松に戻る。まち全体を旅館に見立てる「仏生山まちぐるみ旅館」を10年がかりで進めつつ、「ことぞんおんせん」「50m書店」「おんせんマーケット」「電車図書館」などを始める。



このまちでニヤニヤしながら暮らす

「まちぐるみ旅館」という考え方はどういう経緯で生まれたんですか？温泉施設をつくられた後、空き家を宿泊所としてリノベーションもされています。当初から構想があったんですか？

まちぐるみ旅館の動機は、住民としての個人的な考えからはじまっています。僕自身がこのまちでニヤニヤしながら暮らしたいという。ゆっくり本が読めるカフェがあるとか、おいしいご飯屋さんがあるとかで十分なんです。はじめは宿泊施設のことなんて全然考えていませんでした。このプロジェクトのきっかけとして、まちに足りないと思った暮らしの役割を追加していきたいという感じですね。

星座のように面で捉える

その後温泉の近隣にいろいろなお店ができていますが、その方々と岡さん、お店の方々同士の関係性はどんな感じですか？

お互いに紹介し合うような関係です。組織のようなものは作らないようにしています。枠組みをつくると外と内が生まれやすし、義務のようなものが発生しないようにしたいので。本来あるべきご近所さんという関係性を続けていきたいと思っています。

まちぐるみ旅館という見立て方には、お互いに足りないものを補い合うという関係性も、コンセプトとして盛り込まれているということですね。

そうですね。例えば、夕食の準備のために、商店街に行って、八百屋さん、豆腐屋さん、肉屋さんを巡ります。同じように、宿泊施設にもともとある機能（食べる、寝る、お風呂に入る、お土産を買うとか）が分散している状態を、旅館として見立てるといえることなんです。点を線でつないで、面とらえるという星座のような考え方です。スイミーもそう。離れているところを巡るという行為自体も、お遍路さんのように昔からあります。（分散の仕組みは）特別なことではありません。

街は人によってつくられている

公共（共有するもの）という概念は、官民一緒になってつくられているものなんだと捉え直すことが必要に思うんですね。行政事業も、民間のアイデアや手法を積極的に取り入れることで魅力的になります。ものごとは凸凹していたり、カラフルなほうがおもしろいですからね。

僕はお店も公共施設だと思っているんですよ。民間が運営する公共施設。それを作ることでみんなが良くなっていくという意味で。まちの中でお店という暮らしの役割をちゃんと作っていくというのが民間の仕事です。官民でやれることが違いますから、それが明確にできていれば問題ないし、その境界線上にあるものだったら一緒にやればいい。お店というのは、お互いが豊かになるための一つの手法なんです。だからお店をまち全体で応援して存続させること自体、かなりまちにとってプラスになっていると思います。

まさに「三方よし」の考え方ですね。まちぐるみ旅館というゆるい枠組みが、世界観を共有する仕組みになっていて、さらにそれをみんなで実現しようとする行動にも自然とつながっているんですね。

まちに足りないものをご自身でつくってほしいと思われたんですか？

新しいお店ができるという事象には、普遍的なルールみたいなものがあると思っています。新しいお店でもともと魅力のある所にしかできないと思うんです。何もない砂漠にお店をつくる人はいないですよね。例えば駅の近くとか、めちゃくちゃきれいな海が見えるとか、すごく素敵なお店の隣とか。もともとある魅力の上に、自分のお店を上乗せして魅力を増幅させるというのが一般的です。仏生山も何らかの魅力が必要で、そのためにまちぐるみ旅館という、意味としてのレイヤーを重ねたんです。それによってほんの少し魅力の高まりをつくることができます。

ひとつの目的をみんなで共有するとお互いに足りないものを補い合う、相互補完の関係が生まれます。まちで言うと、そもそも人が集まって暮らしている理由は、協力し合うためなんです。1人で持てない石を2人だったら持てるというね。地域の魅力をつくるには、面としてとらえるのが効果的だと思っています。

お裾分け文化って、価値をお金という尺度ではかる関係性とは違いますよね。でも、結果的に、確実にお互いが嬉しくなっています。こういう関係性は浜田にも素地としてあると思うので、それを再起動させることはまちに大きな効果をもたらすと考えています。

それに通じる関係性だとも思います。相互補完の関係で理想的なのは、全体の目的と個人の目的が一致している状態です。団体スポーツのように、ポジション（役割）はみんな違いますが、自分が貢献してチームが勝つことを目指している。勝ったらみんなで喜びます。旅館も同じ、まちも同じです。どう集団で素敵に暮らすか、個人としてどう素敵に暮らすかが一致しているかということがとても重要なんです。

雰囲気とか空気感はそのようなところから生まれるものですよ。やっぱり面で勝負ですね。

1市3町1村が合併して今の浜田市ができました。各地域の特色を出しながらも、一体感をどうやってつくっていけるだろうかと考えています。小さなくりの方が活動しやすいこともありますし、全体で取り組むことで効果が出やすいこともあります。

人間は意識の中にいろいろな輪郭をつくって暮らしています。まちぐるみ旅館という考え方によって意識の輪郭がまちへ自然に広がるように、まちを自分ごとであると捉えることが大切です。仏生山は小さな輪郭ですが、浜田市のようにもっと大きな枠組みでもできるでしょうね。人が街に所属しているのではなく、街は人によってできているという考え方を忘れてはいけないんじゃないかな。

井上ひさしさんが著書『ポロニヤ紀行』で書いておられますが、人生に美しさを見出したいなら、みんなでそのまちをつくるんだと。わたしたちのまちですからね、関わらないと。岡さんの言葉をお借りするならば、僕も浜田の人たちとニヤニヤして暮らしたいですね。

02. ACTION

浜田をよくするための6つのアイデア

6つのアイデアに対して取り組んだこと

学校と地域社会との距離を縮める環境を整えます。



所属する総務文教委員会では、政策討論テーマに「幼児教育の魅力化」を提案し採用されました。この一年、関係者へのヒアリング調査や意見交換会の実施、また勉強会も行いながら、提言に向けて議論中です。その中で、教育振興計画において幼児教育の重要性を明確にうたうことや、市独自の幼児教育センターの設置、世界こども美術館や公民館といった社会教育施設を最大限活用した**浜田式幼児教育プログラムの開発**を提案しています。

また、公立幼稚園については、3園統合の方針が示されていますが、標準的なサービスとして何が必要かを見直し、受け入れ環境の改善に努めるべきと考えています。提言まであと少しです。

市民一人ひとりの力をまちの力に変換する仕組みをつくりま



2020年9月、「浜田市協働のまちづくり推進条例」が制定されました。社会教育や生涯学習を推進してきた公民館を協働のまちづくりの拠点として、また、それを推進する役割を持たせ、社会教育の手法による人づくりを土台として、まちづくりを進めていくと記されています。この半年間、島根大学の**社会教育士(これまでの社会教育主事)**講習を受講し修了しました。社会教育の考え方だけでなく、ワークショップ設計のポイントや手法についても学び直す良い機会になり、ひとづくりや学びを通じた地域課題解決のヒントをたくさん得ることができました。この学びを浜田市の新制度運営に生かしていきたいと思っています。

「浜田にいても最先端」をキーワードに、公共施設を経営します。



所属する自治区制度等行財政改革推進特別委員会では、昨年9月に市長に対して申し入れを行いました。かねてより必要性を訴えている、**官民連携手法(PPP:Public Private Partnership)**の推進も盛り込まれ、引き続き民間活力の活用促進を訴えています。12月の一般質問では、**駅周辺における回遊性を高めるための歩行者思考のデザインや景観配慮の必要性について提案**しました。また、コロナ対策として沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の許可基準が緩和されていることに触れ、公共空間の使い方をテーマに道路や公園の利活用について質問しました。今後、法及び条例改正されるとのこと。商店主の方々にはぜひ活用をご検討いただけたらと思います。

社会の変化に対応した企業・産業の成長機会をつくりま



(公財)しまね産業振興財団との共催勉強会「**はたらき方を考えてみよう**」を企画、**ファシリテーター**を務めました。市内で起業や新規事業をお考えの方々と、仕事環境における価値観の変容・多様化などについて一緒に考えました。コロナショックによって自宅で仕事をすることも当たり前になりました。距離に対する意識が大きく変わり、地方への移住も再注目されています。浜田市での**新サービスの可能性や受け入れ体制の構築について観光事業者やメディアと定期的に協議**しています。「新しい企業(人材)誘致」のあり方を考え、着手しなくてはなりません。ネット環境とおいしいコーヒーは必須条件のようです。

市内外の人が交流しやすい環境と機会をつくりま



2020年4月に浜田市には定住関係人口推進課が設置されました。(公財)ふるさと島根定住財団が行う関係人口創出事業「**しまコトアカデミー**」に、**引き続きメンター**として関わらせていただきましたが、すべてオンライン対応。コロナ禍だからこそのつながりづくりを考えようと事務局の方々とチャレンジしました。結果、物理的な距離を乗り越えて「一緒にやれること」も、逆に「地域側でしかできないこと」も、両方明確になったように思います。また、雑誌『ソトコト』編集長の指出さんと、浜田・江津の地域活動・人を紹介する**YouTube番組「かわりしろチャンネル」**で共演させていただきます。ぜひこちらもご覧ください。



「かわりしろチャンネル」▲

コミュニティづくりの手法に創意工夫を持ち込みま



議会広報広聴委員長就任に合わせお示した計画に則って活動を進めています。
1. 広聴機能の強化：コロナ対策として中止した議会報告会に替わる広聴方法を考えました。市民の方々から議員全員で議場にてご意見・ご要望を伺う**市民一日議会の7月開催**を目指しています。また、各地域協議会との意見交換会も、実施に向けて調整を進めています。
2. 広報機能の強化：**議会だよりをリニューアル**しました。委員全員で「読みたくなる」誌面構成を心がけています。また、**議会だよりmini(ウェブ版)の発刊**にも至り、情報発信活動の充実が図られました。



03. COLUMN

コラム「一年を振り返って」

こんにちは、三浦ひろきです。
3年目はコロナの一年。議会も対策最優先でした。多くの制限がある中で、いかに活動を止めないか、試行錯誤の一年でした。あつというまに社会のルールが変わりました。私たち一人一人の意識が変わることで社会が変わる、変えられることが実証されたように思います。
また、地方の「自力」が試されている時であるとも言えるのではないのでしょうか。踏ん張って取り組むこと、そして、将来を考えて必要な力を身に付けることに早期着手することの両方が必要です。社会の変化が見通しにくい中、現場の声を拾うだけでなく、それからどうしていくかの提案力が私たち議員にはより求められるという自覚のもと、残りの任期もしっかり学び続け、仕事をしていきたいと思っています。
行政が担うべきと思うことは議員として後押しをし、自分たちでできること・やりたいことはNPOや与えられた役割の元で、仲間を集めて形にする。これは、今も変わらない私のまちに関わるスタンスです。
今後とも、三浦ひろきの活動にご注目いただき、叱咤激励いただけましたらこの上なくうれしいです。

04. PROFILE

プロフィール



三浦 大紀 (みうら ひろき)
1980.1.29 浜田市生まれ 41歳

国府保育園→松原小学校→浜田第一中学校→浜田高校
→早稲田大学政治経済学部
衆議院議員橋本龍太郎・橋本岳秘書、NPO法人日本リザルツ事務局次長を経て、浜田市ヘリターン。NPO法人でごねっと石見のスタッフとして、商店会活性化事業や創業支援事業などに携わる。2014年に株式会社シマネプロモーションを設立し、県内企業や自治体の事業開発支援を行う。
2017年10月浜田市議会議員初当選。現在、議会広報広聴委員長、総務文教委員、議会運営委員、自治区制度等行財政改革推進特別委員。NPO法人でごねっと石見/理事、GO▶つくる大学/校長、しまコトアカデミー/メンター。

趣味：山登り、DJ | 尊敬する人物：橋本龍太郎
好きな言葉：幸せ おいしい 美しい 健康 最高 遊ぶ 無自性
長所：思い立ったらすぐ行動する | 短所：忘れっぽい



■三浦ひろきの会事務所
697-0032 浜田市牛市町75 TEL:050-5216-0261
ウェブサイト: miurahiroki.net
問い合わせ: info@miurahiroki.net

[活動報告やってます!] 議員活動が始まってから、概ね週に一度の活動報告を記録しています。バックナンバーもありますので、ぜひご覧ください。>>>